

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873300933		
法人名	株式会社 テンダーケアジャパン		
事業所名	ケアホーム テンダーの杜 なか		
所在地	茨城県那珂市横堀 2274-1		
自己評価作成日	平成29年1月5日	評価結果市町村受理日	平成29年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=0873300933-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2		
訪問調査日	平成29年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木のぬくもりの中で、利用者の自己決定権を最優先に考え、落ち着いた雰囲気の中で、安心して生活が送れるように支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年に開設された2ユニットのホームである。地域の子供達がホームの行事以外でも利用者と一緒に花火を楽しみ、ホームの行事案内のポスターを地域の商店が店に掲示してくれたり、門松づくりに自治会長さんが協力してくれるなど地域に親しまれ、大切にされている家庭的なホームである。理念作成などを通して各職員の認知症ケアへの思いが統一され、利用者本位のケア実施について常に話し合い、自由な暮らしを支えるための工夫や模索を行っている。建物は全体的にゆったりとした造りで、居室部分の避難口の明確化や防火扉・スプリンクラーの設置などがされ、火災等の災害に備えた訓練の実施や近隣住民の協力体制を整え、利用者の安全な暮らしへの配慮がされている。24時間対応可能な医師や看護師の確保により、看取りケアや日々の健康管理などが充実している。利用者は自宅に居た時のように新聞を読んだり、日記をつけたり、好きな草花の手入れなどをする等、できることを役割とし、安心して誇りある暮らしをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社独自の理念がある。理念がケアに反映できるように職員全員が向上心を持ち取り組んでいる。	全職員から提案を募り、管理者がこれをまとめて3つの項目からなる理念を明文化した。全職員はこの理念を共有して日々のケア実践につなげている。特に『ありがとうを言える職場づくり』には意識的に取り組んでおり、ホーム全体の明るい雰囲気づくりに活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々との交流や密着が出来ており、夏祭り等にも参加して頂けるように案内をしている。市内のボランティア団体の方にも来設して頂いている。	夏祭りや秋祭りをホームで実施することで地域住民とは親しい関係が出来てきており、自治会を通して祭りのチラシを配布したり、近所の商店にポスターを掲示してもらう等地域の一員として受け入れられている。散歩途中での挨拶や利用者の花火遊びに近所の方達が集まってくるなど日常的に親しく交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成への貢献として実習生を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告書を閲覧し、職員同士で話し合いの場を持ち、サービス向上に努めている。	利用者や自治会長、民生委員、市の職員などの出席を得て2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの活動状況や日頃の利用者の様子などを丁寧に伝えており、出席者からは自治会の活動など地域の情報を得ている。運営推進会議を通してホームの活動なども回覧板で地域に知らせて頂けるようになる等、地域に協力者が増えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に訪問して利用者の状況を伝えるなどし、協力関係を築けるように取り組んでいる。	運営推進会議では事業所や利用者の実情を丁寧に伝えるなど積極的な協力関係づくりに努めている。ボランティア探しなどにも市の関係者が気軽に協力してくれる。確認や相談は何時でも気兼ねなくできる良い関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束を理解しており、玄関には鍵を掛けず、いつでも出入りが自由に出来るようにしており、外に出て行く利用者が居た時は、気付いた職員がさりげなくついている。	身体拘束については拘束による弊害も含めて正しい知識を全職員が身に付けており、常に拘束のないケアを実践している。外に出たい利用者には付き添って歩く等、利用者が落ち着くのを待つ丁寧なケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は虐待に対しての重要性を理解しており、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、権利擁護や成年後見人制度について話し合い、必要ならば活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時など、利用者や家族に対し、十分に説明している。また、常に不安や疑問がないか尋ね、声を掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席して頂き、意見や要望を自由に話すことが出来、運営に反映出来るようにしている。また、頻りに面会が出来ない家族に対して電話で近況報告をしたり、毎月お手紙で様子を伝えている。	利用者の希望や意見は日々の暮らしの中や運営推進会議等で聞く機会を設けている。家族とは日頃から家族の相談事にも関わられるような関係づくりに努めており、毎月の『テンダーの杜通信』では利用者の写真の他、職員が丁寧に手紙を書いて日々の様子を知らせる等、親しみが有り、何でも遠慮なく言える関係づくりをしている。来所時は遠慮のない意見や提案を頂き運営に反映させている。	毎月の『テンダーの杜通信』は個別の事が丁寧に書かれても家族に喜ばれているとの事であるが、通信の中に全利用者・家族に共通して伝えたい事等(職員の異動や運営推進会議の事等)も含められるような書式の検討を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に全体会議を行い、意見や提案を話せる機会を設け、検討し、反映させている。	管理者は職員の意見や提案を聴く姿勢を示しており、職員もまた自分たちのホームであるとの考えが定着している。地域との関係づくりや利用者の重度化に合わせて介護用のベット購入や、安定したシャワーチェア購入などの提案がされ、何れも購入するなど、利用者の状態に合わせた意見や提案を積極的に行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、時間を作り、現場に顔を見せ、利用者や職員の言動を把握するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の能力に合わせ、外部研修会に参加させたり、月1回の全体会議は全員出席を原則としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にあるグループホームの管理者が集まり、連絡協議会の発足等を話し合ったり、情報交換しながら、サービスの向上に向け努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、生活状況や身体状況を把握するように努めたり、状況によっては、ショートスティの利用も含め対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてどのような対応が出来るのか、事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーと相談したり、ショートスティの利用も含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、昔からの風習や遊び、手作業などを会話の中で教えて頂き、行事や畑作業などで共に活かせるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などへの参加を呼びかけたり、病院受診同行など依頼し一緒に過ごせる時間を多くとれるように努め、一緒に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は誰でも自由に行うことができる。友人が来設し、一緒に外食する利用者もいる。また、家族と共に馴染みの場所や思い出の場所へも外出できるようにしている。	地元からの利用者が多いことから友人や知人、教子など、様々な方々が面会に訪れ、一緒に馴染みのお店で外食を楽しむことが増えている。家族がおせち料理を持参し、家に居た時の正月料理を楽しむ利用者もあり、外出計画時には幾つかの選択肢を示して懐かしい場所などを聴きながら選んでもらう取り組みも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が一人一人出来る事を行ないながら、皆で支え合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後においても、気軽に話の出来る関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望や思いを、会話の中から聞き、家族とも相談しながら検討している。	本人の希望を聞き新聞を読んだり、プランターで花や野菜を育てることを日課としている。思いを言葉で伝える事が困難な利用者の中には表情や行動から本人の思いをくみとり、職員間で本人本位に検討し、好んでできる掃除や洗濯物をたたむ事、食器拭きなどをしながらそれぞれが役割のある暮らしができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の調査を基に、本人や家族、担当ケアマネージャーより情報を頂き、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の過ごし方や心身の状態、状況を把握しており、残存機能を活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者は、常に、本人、家族、職員から情報収集に努め反映するようにしている。	利用者や家族の希望を聞きながら職員のアイデア等も取り入れ、ユニットリーダーが介護計画を作成している。計画はそれぞれの役割や楽しみごとを取り入れて暮らしに反映できるよう丁寧に作成されている。毎月全職員が参加して担当者会議を実施し、モニタリング・アセスメントを行い利用者の状態に応じた定期的な見直しや随時の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや生活記録に記入し、情報を共有し、見直しに活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、行事などを行っている。また、希望によって、入所前の体験入居や、家族との宿泊の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、周辺情報や支援に関する情報を頂き、参考にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医や、希望の病院を聞き、利用者や家族が納得される病院へ受診できるように支援している。また、体調の変化時に連絡して指示を頂けるようにしている。	かかりつけ医への受診は基本的には家族が同行しているが、精神科受診など日頃の様子を伝える必要がある場合や緊急時など家族の都合がつかない場合には職員が同行して受診している。個別に毎月受診している利用者以外は月2回の往診があり、常に利用者の健康状態を把握し適切な医療を受けられるような支援をしている。	往診記録や受診記録はその都度個別記録に残して確認できるようにしているが、家族同行の受診や職員同行の受診結果、往診記録などを時系列的にまとめ、本人の健康状態を家族・職員・医療機関で共有できるような、また緊急時にも備えた書式の検討を期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や仔細な表情の変化を見逃さないよう、早期発見に努めている。変化等に気付いた時には、看護師に報告し、指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、入院後も医師や看護師、相談員と話したり、家族と連絡を取り合い、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族にも十分な説明を行い、同意を得ている。また、事業所としての「出来る事・出来ない事」を見極めて、かかりつけ医や看護師と相談しながら支援する体制が出来ている。	24時間対応可能な医師や看護師の確保ができており、「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき看取りケアを実施している。重度化に合わせ医師を中心に介護計画を作成し、全職員が統一したケアができるようにしている。終末期には家族も含めて医師と相談し、頻繁に介護計画を見直し、看護師の指導の下で適切なケアができる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、日頃の業務の中で話し、説明しながら応急手当の指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施しており、地域の方々にも日頃から協力していただけるようお願いしている。	消防署の協力の下で訓練を実施しており、夜間想定訓練や失火元を特定した訓練など、火災時の避難訓練を実施している。建物は各ユニット毎に避難口があり、ユニット毎の居室部分には防火扉を設置してある。さらにスプリンクラー設置など火災への備えを徹底している。災害時に備えた水や食品の備蓄も頻繁に点検している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、利用者一人一人の人格を尊重し、プライバシーに配慮しながら、さりげなく対応している。	利用者それぞれが好きなこと(趣味も含めて)をしながらその人らしく過ごせるような配慮をしており、日記を書いたり、好きな歌の本を身近に置いたり、できることを役割とする等一人ひとりが誇りをもって過ごせるような関わりをしている。入浴などは同性介助の希望にも応じられるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その場面と状況を利用者に伝え、なるべく自分で選んで頂けるように、声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間は、ある程度決めてあるが、その他の事は利用者一人一人の意思を尊重し、利用者のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の希望に合わせて、その日の衣類と一緒に選んだりしている。又、利用者の希望に合わせて、本社からの月1回の訪問無料散髪を利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前には、おしぼりを丸めて頂いたり、食後には、洗った食器やお盆を拭いて頂いたりしている。食事は一人ひとりに合わせきざみにしたり、ペースト状にしたりで対応。飲み物にとろみをつけ対応している方もいる。	献立や食材の購入は業者に依頼し、調理はホーム内で職員が行っており、調理の段階から食事を楽しむ雰囲気が見られた。ひな祭りなどの行事にはちらし寿司や甘酒を準備したりして季節に合わせた楽しみを取り入れている。日々の楽しみとしてはおやつで工夫をしたり、季節に合わせて一品添える等職員の細やかな配慮も日々行っている。介助の必要な利用者の食事もしっかりと声掛けをしながらみんなで楽しんでいる様子が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事摂取量を毎食後に記入している。また、水分摂取量の少ない方には、水分チェック表を用いて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、一人一人の口腔状態や力に応じた支援をしている。義歯の方には、毎日、入れ歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄チェック表をつけ、排泄のパターンや習慣を把握し、その方に合わせた支援を行っている。	重度化しオムツ対応の人もあるが、日中は殆どの利用者がトイレで排泄しており、夜間もポータブルトイレの使用や声掛けなどでオムツにしない工夫をしている。失敗が多くなった場合には布パンツを多くしたりパットを使用したりして紙パンツにしない工夫をしながら、丁寧な声掛け・見守りをして自立に向けた取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェックや個別に飲食物を摂って頂いたり、レクリエーションや体操、散歩等で身体を動かすように取り組んでいる。便秘傾向の方のご家族には、ヨーグルトやバナナを持参頂いて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間はある程度決めているが、できるだけ本人の希望やタイミングに合わせている。	二人対応で入浴をする利用者も含め、それぞれが週2回は入浴できるようにしている。利用開始間もない頃には拒否する人もあるが、毎日入浴が可能であることから無理強いせず、夕方に勧めたり、気分の変わるのを待たせたりして気持ちよく入浴できるような支援をしている。浴室の窓を開け中庭の景色を楽しめるようにしたり、一人でゆっくり入浴してもらうなど、その人に合わせて入浴が楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動量が増えるように促し、生活のリズムを整えながら、個々の睡眠のパターンに合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬についての重要性を理解しており、症状の変化の時には、主治医に相談し指示を仰いでいる。また、薬の情報についても、いつでも相談できる薬剤師がいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人に合わせて、軽作業をして頂いたり、朝礼に参加して頂き、挨拶を頂いたり、自室にてじっくり話を聞いたりし、気晴らしの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気や状況に合わせて、散歩に出掛けたり、外庭でレクリエーションをしたり、近所の商店などへ一緒に買い物に出掛けたりしている。また、一人一人に行きたい場所を伺い、お花見等は、利用者と相談しながら場所を決め、出掛けられるように支援している。	冬の寒い季節以外は毎日のように中庭で体操や散歩をして常に外に出るようにしている。中には一日に3～4回外歩きをしたいという利用者もあり、可能な限り職員と一緒に歩くようにしている。近くの商店やスーパーなどへの買い物外出は随時行い、行事としての外出は利用者も一緒に出掛ける場所を考え、利用者の希望を聴きながら花見や紅葉狩り等を計画して外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、お金を持つ事大切さを理解しており、お金を所持したり、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、携帯電話を持参して頂き、自由に家族と話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の優しい光が入るように配慮している。玄関先には、草花を飾り季節感を取り入れている。	よく手入れされたヒノキの浴槽やトイレなど、ホーム全体が清潔で落ち着いた雰囲気であり、共用のスペースと居室はエリアを分けている。居間には見やすい時計やカレンダー、季節の花などが置かれ、畳のスペースには懐かしい家具などを置き、ほっとできる空間を作っている。利用者の顔を見ながら調理できる台所は家庭的な雰囲気を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	囲炉裏のある談話室があり、入居者それぞれが自由に過ごせる空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごせるように、利用者やその家族と相談し、馴染みの品やお仏壇、写真等を持ち込んで頂けるようお願いしているが、利用者の状況により対応している。	各居室は畳の部屋とフローリングの部屋がある。それぞれの好みや状態に合わせて使い易く設えられている。仏壇を置いて落ち着いた雰囲気づくりをしたり、好きな本や家族の写真などを身近に置く等、利用者それぞれが落ち着いて過ごせるように工夫されている。家族の訪問に備えて椅子を置いたり、利用者の状態に合わせて衣類などを押し入れに収納する等、利用者一人ひとりの状態や好みに合わせた職員や家族の心配りが随所に見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、必要な目印を付けたり、物の配置に配慮している。		

(別紙4(2))

事業所名: ケアホーム テンダーの杜 なか

目標達成計画

作成日: 平成 29 年 5 月 3 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	・往診記録、受診記録は、その都度職員が閲覧する申し送りノートに記録している。しかし急変時等には口頭での報告になってしまっている。	・急変時等に誰でも利用者様の現在の状態、診療状況が把握出来るように記録に残す。	・利用者様それぞれの個人カルテに定期的に診療記録をしファイリングし、急変時等に備える。	6ヶ月
2	6	・毎月の施設での活動状況が、今まではご家族様に報告が出来ていなかった。	・全てのご家族様が、施設の日頃の活動状況を把握できるようにする。	・毎月請求書送付時に同封しているお手紙の一部に施設の活動状況を記載しお知らせする。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。